

平成31年度 第1回 上市町地域公共交通活性化協議会

町営バス再編実施検討調査の内容及び再編方針

町営バス路線等再編検討調査事業について

1. 町営バスの経過と運行概要

町営バスの経過

(1) 町営バスの経過

H10. 8 町営バス試行

H11. 3 町内全路線の民営バス休止

H11. 4 町営バス本格運行（四系統を二系統ずつ隔日（三回／日）

H15. 4 六系統に改編


※以降、地区住民の要望や住民アンケート、関係機関との調整によるダイヤ改正や路線再編・停留所増設等を経て現在に至る。

※町営バス根拠法 道路運送法第79条 自家用自動車有償運送事業

道路運送法第4条 一般旅客自動車運送事業（相ノ木・弓庄線）

(2) 運行概要（運行車両）

平成29年度は常時6台により運行

乗車人数等	台数	所有者	写真
32人乗り（日野・ポンチョ）	1	上市町	
29人乗り（いすゞ・ジャーニー）	1	上市町	
14人乗り（トヨタ・ハイエース）	1	上市町	
9人乗り（トヨタ・ハイエース）	1	上市町	
63人乗り（地鉄借上げ）	1	富山地鉄	
55人乗り（地鉄借上げ）	1	富山地鉄	

(3) 運行概要（運行形態）

左記の6台を富山地方鉄道の運転手4人体制で、町内6路線に分け、1日あたり4～6便で定時定路線により運行されている。また、運行路線は基本的には、町中心部（上市駅又は保健福祉総合センター）を起終点とした循環型路線となっている。（別紙町営バス概要図 参照）

（運行路線名）

- ① 柿沢大岩線（大岩行き・センター行き）・・・10.4km（堤谷経由）（片道）
- ② 白萩線・・・26.9km（釈泉寺経由）
- ③ 南加積線・・・16.5km
- ④ 宮川線・・・16.7km
- ⑤ 相ノ木線・・・20.1km
- ⑥ 弓庄線・・・14.3km

運行方式については、町営バス本格運行以降、小中学校への通学児童・生徒と一般客を混乗する方式で現在まで運行されている。

(4) 町営バス運行委託先

町営バス本格運行以降、運行は一貫して富山地方鉄道(株)に委託を行っている。

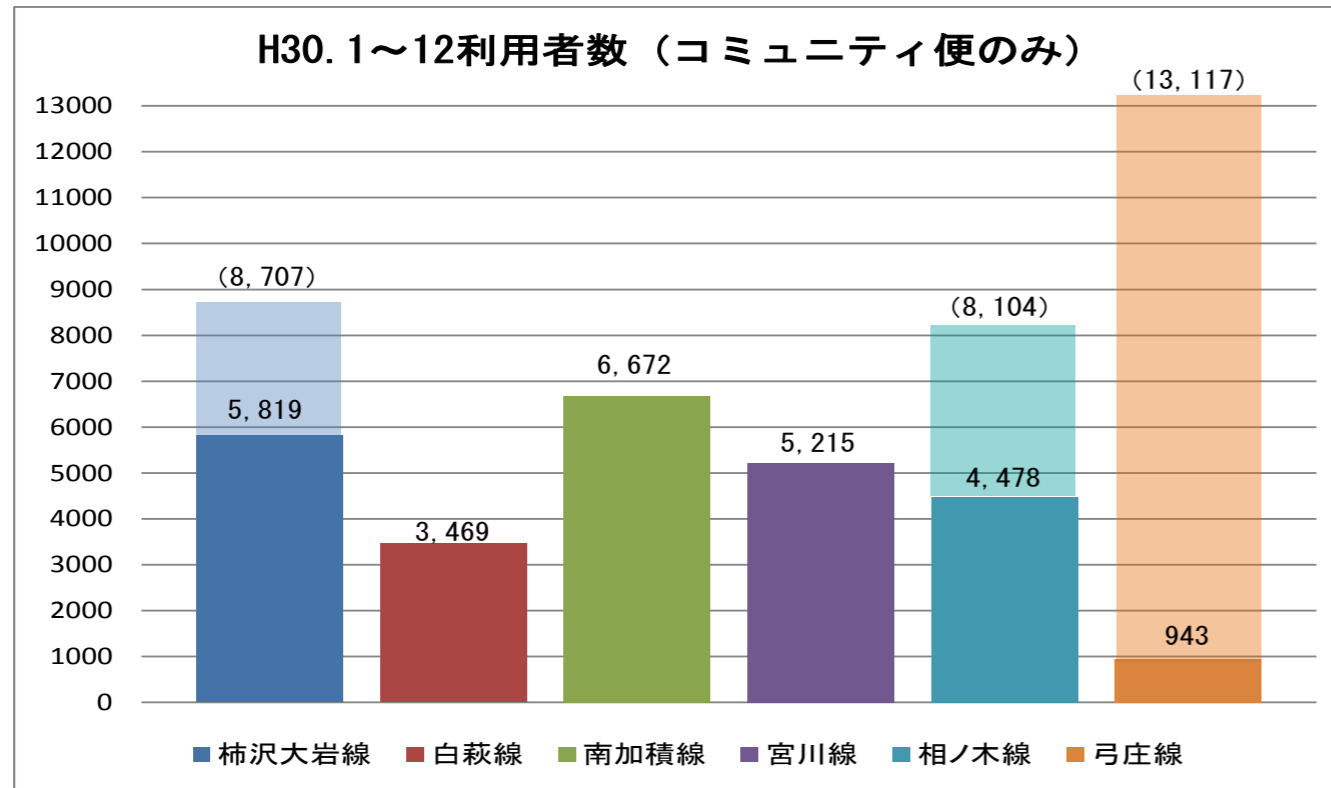
2. 町営バスの利用状況と町営バスに対する意見

町営バス利用状況（全体）

町営バスにおける利用状況を以下のグラフ及び表により分析を行った。

① 平成30年1月～12月 路線別利用者数状況

平成30年の利用者数は、全体で45,284人、うちコミュニティ便に関しては26,596人（70人余/日あたり6路線）であった。路線ごとの利用者数は以下のとおりでした。



() 数値はスクール便も含めた路線全体利用者数。

② 平成30年1月～12月 曜日別利用者数状況

曜日別利用状況では、平日に利用が多く、土日祝日（特に日曜日）に利用者が少なくなる傾向があるが、柿沢・大岩線においては利用者数が多く、全路線の3割程度を占めています。

路線名	平日 運行 便数	土日祝 運行 便数	曜日	祝日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	小計
			日数	12日	52日	43日	51日	51日	51日	50日	52日	
			割合	3.3%	14.4%	11.9%	14.1%	14.1%	14.1%	13.8%	14.4%	100.0%
柿沢・大岩線（往復）	12	10	利用者数	134人	681人	1,146人	1,496人	1,338人	1,455人	1,624人	833人	8,707人
			曜日別乗車割合	1.5%	7.8%	13.2%	17.2%	15.4%	16.7%	18.7%	9.6%	100.0%
白萩線	5	3	利用者数	87人	283人	314人	606人	554人	589人	618人	418人	3,469人
			曜日別乗車割合	2.5%	8.2%	9.1%	17.5%	16.0%	17.0%	17.8%	12.0%	100.0%
南加積線	4	3	利用者数	69人	303人	863人	1,365人	1,173人	1,187人	1,210人	502人	6,672人
			曜日別乗車割合	1.0%	4.5%	12.9%	20.5%	17.6%	17.8%	18.1%	7.5%	100.0%
宮川線	4	3	利用者数	75人	295人	637人	877人	929人	952人	870人	580人	5,215人
			曜日別乗車割合	1.4%	5.7%	12.2%	16.8%	17.8%	18.3%	16.7%	11.1%	100.0%
相ノ木線	5	4	利用者数	89人	253人	1,155人	1,589人	1,506人	1,650人	1,440人	422人	8,104人
			曜日別乗車割合	1%	3%	14%	20%	19%	20%	18%	5%	100%
弓庄線	4	2	利用者数	38人	168人	2,090人	2,805人	2,632人	2,709人	2,361人	314人	13,117人
			曜日別乗車割合	0.3%	1.3%	15.9%	21.4%	20.1%	20.7%	18.0%	2.4%	100.0%
全体	利用者数		492人	1,983人	6,205人	8,738人	8,132人	8,542人	8,123人	3,069人	45,284人	
	曜日別乗車割合		1.1%	4.4%	13.7%	19.3%	18.0%	18.9%	17.9%	6.8%	100.0%	

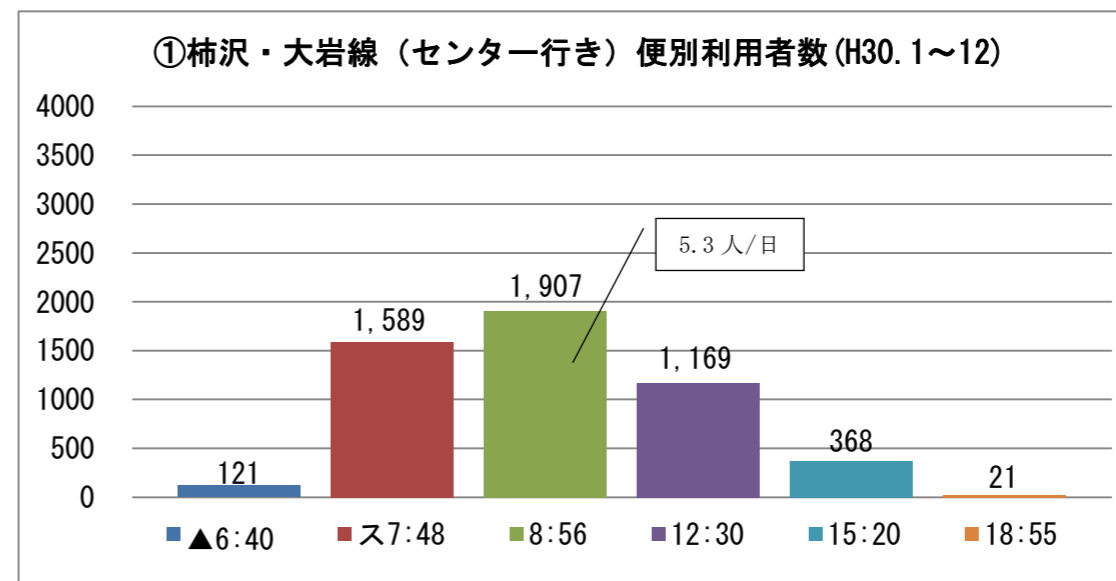
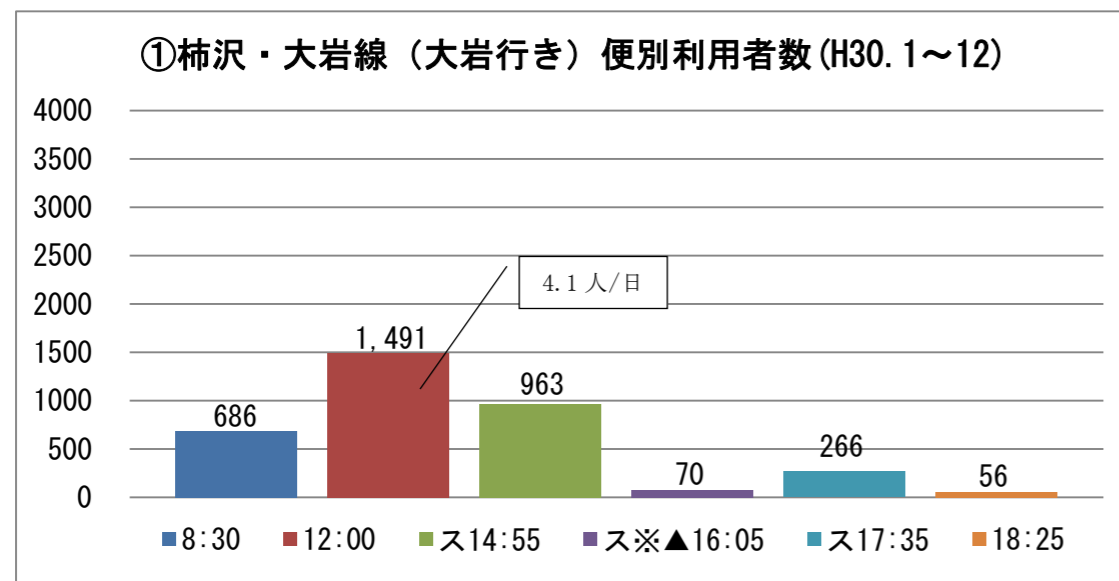
※祝日は土日以外の祝日のみ計上
※町営バス運休日（12/31, 1/1, 1/2）は除く。

各路線における利用状況 ※以下のグラフはいずれもH30.1~12月の数値を活用したもの

ス スクールバス
 ▲ 土・日・祝日運休
 ◎ 4/1~11/30の間は 土・日・祝日運休
 ※ 学休日運休

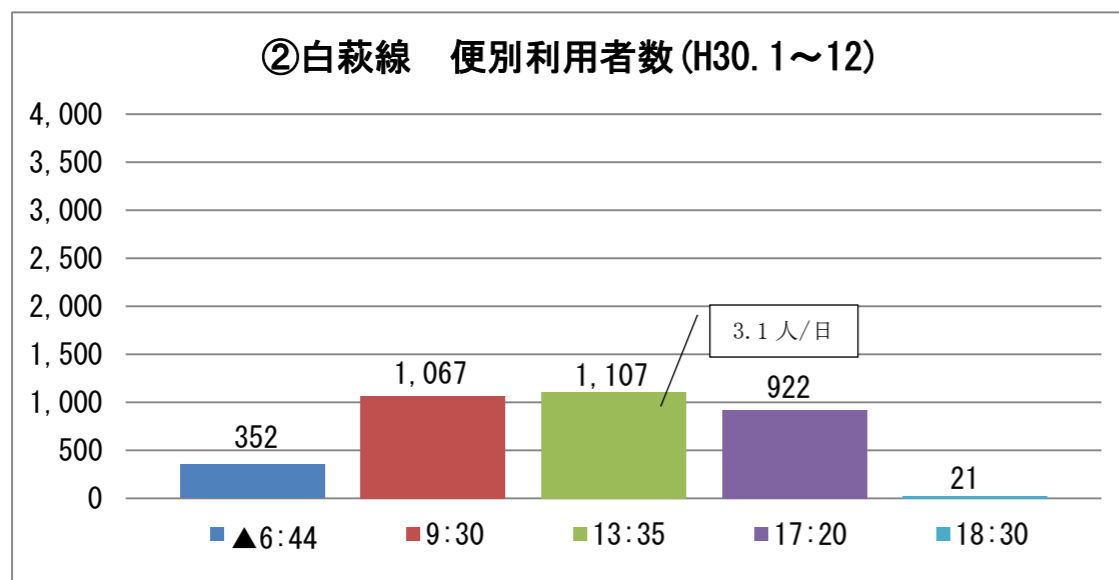
(柿沢・大岩線)

- ・大岩行きでは午後の便の利用者が多く、センター行きでは午前の便の利用者が多くなっているが、両方とも早朝と夕方の便の利用は少なく、特に18時以降便及の利用は極めて少ない状況。
- ・なお、大岩行き第4便（スクール）については、柿沢四区発であり陽南小学校通学児童用となっています。



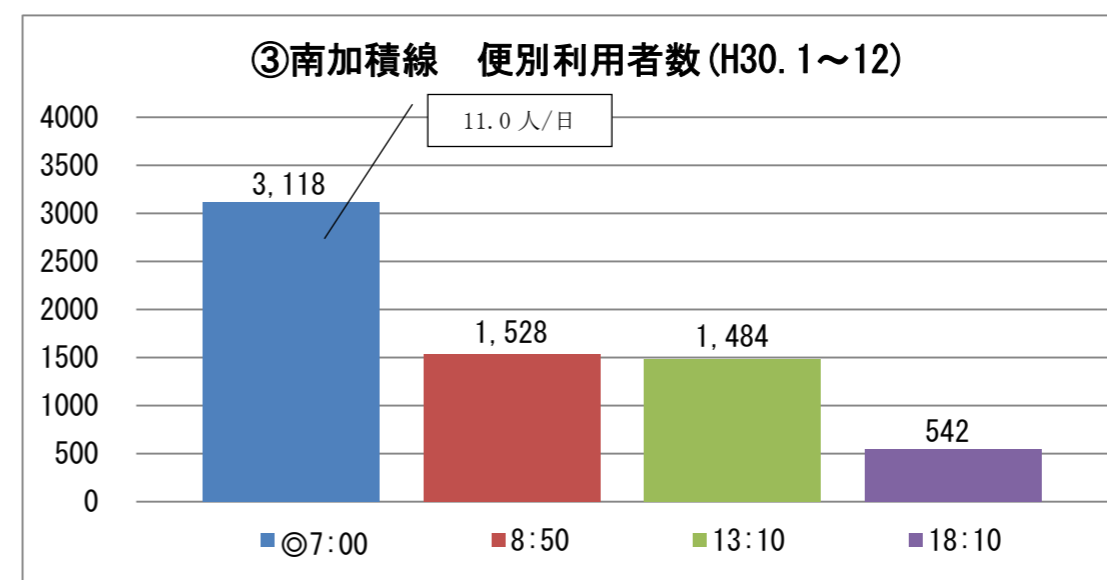
(白萩線)

- ・日中～夕方には一定の利用があるが、全体を通して利用者が少ない状況。
- ・早朝及び18時以降便が少なく、特に18時以降便は利用がわずかとなっています。



(南加積線)

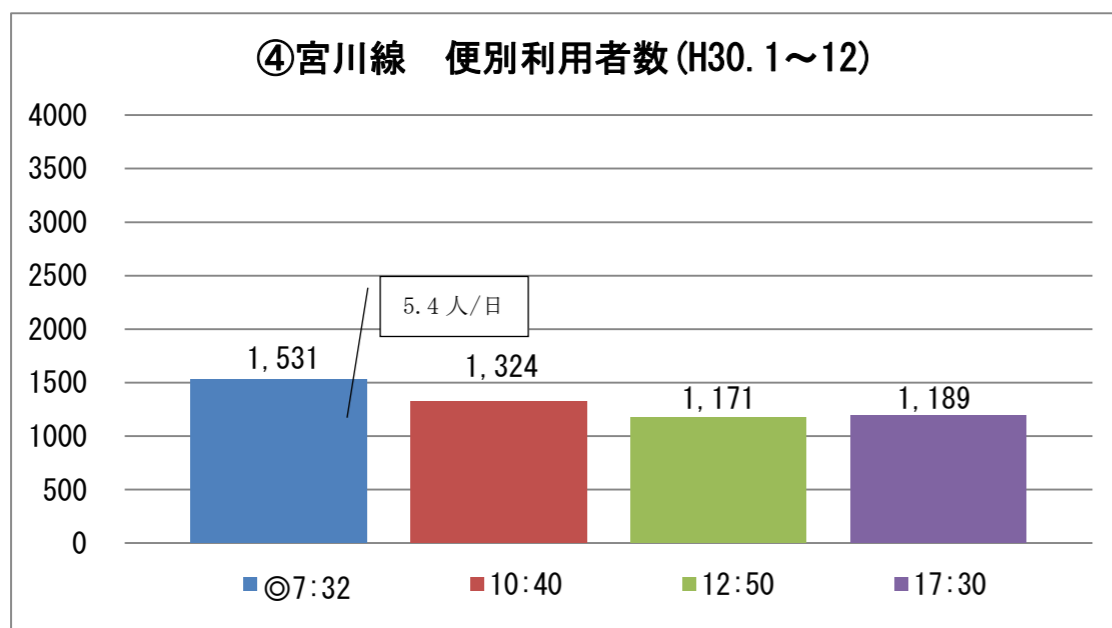
- ・午前中の便の乗客が多いが、午後の便は少なく、帰宅において別の手段が使われている可能性があります。
- ・利用状況においては、第一便は黒川地区在住の児童の利用が多い状況。



※「◎」の運行日数は283日（4/1~11/30の間土日祝日運休）

(宮川線)

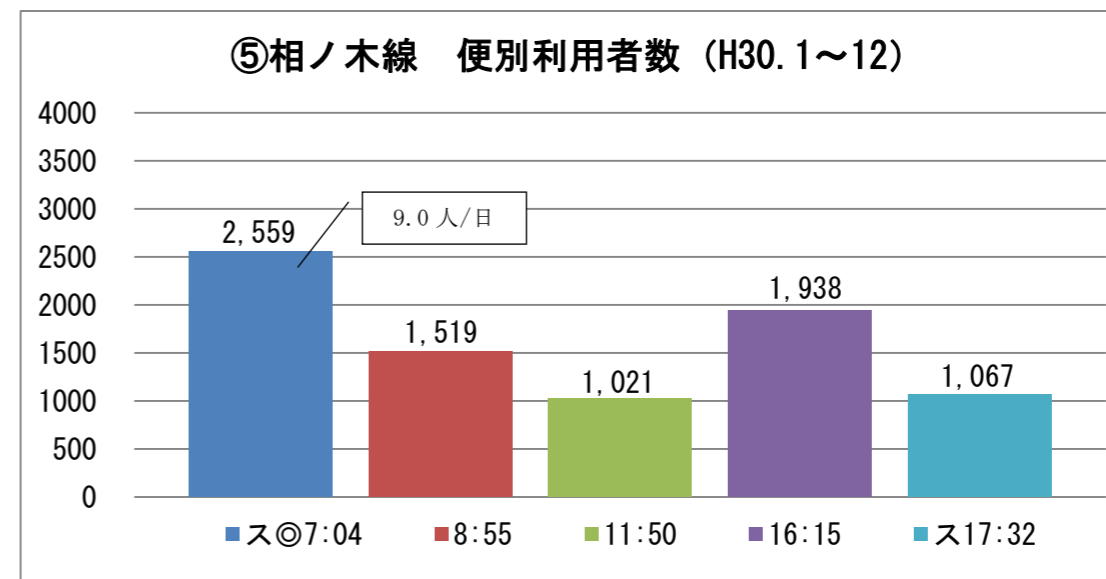
- ・いずれの時間帯においても一定の利用がみられ、偏りなく利用されています。



※「◎」の運行日数は283日(4/1~11/30の間土日祝日運休)

(相ノ木線)

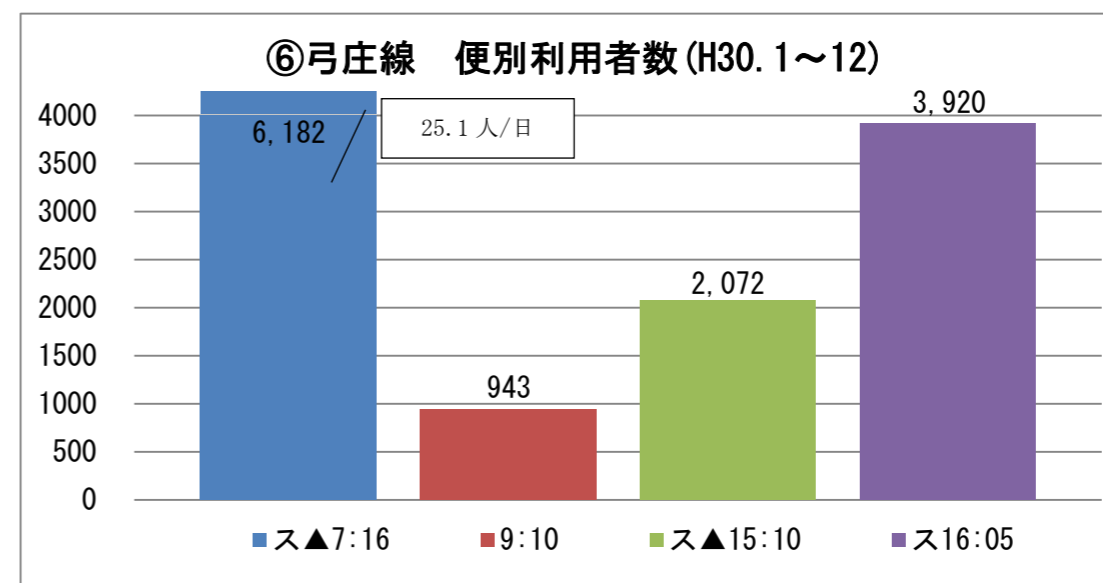
- ・朝夕(登下校時間帯)の便のスクールバス利用者が多い状況。
- ・日中においては、宮川線、南加積線と同程度の利用があるが、11時台及び17時台の利用が若干少ない状況。



※「◎」の運行日数は283日(4/1~11/30の間土日祝日運休)

(弓庄線)

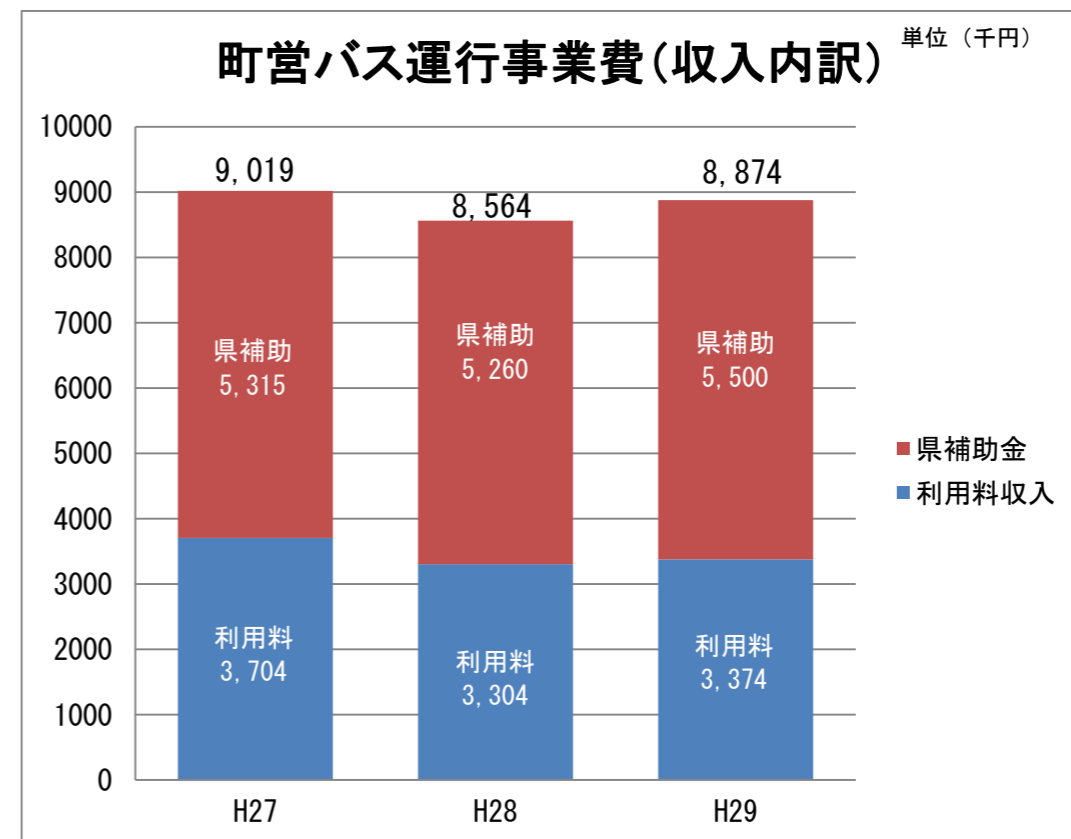
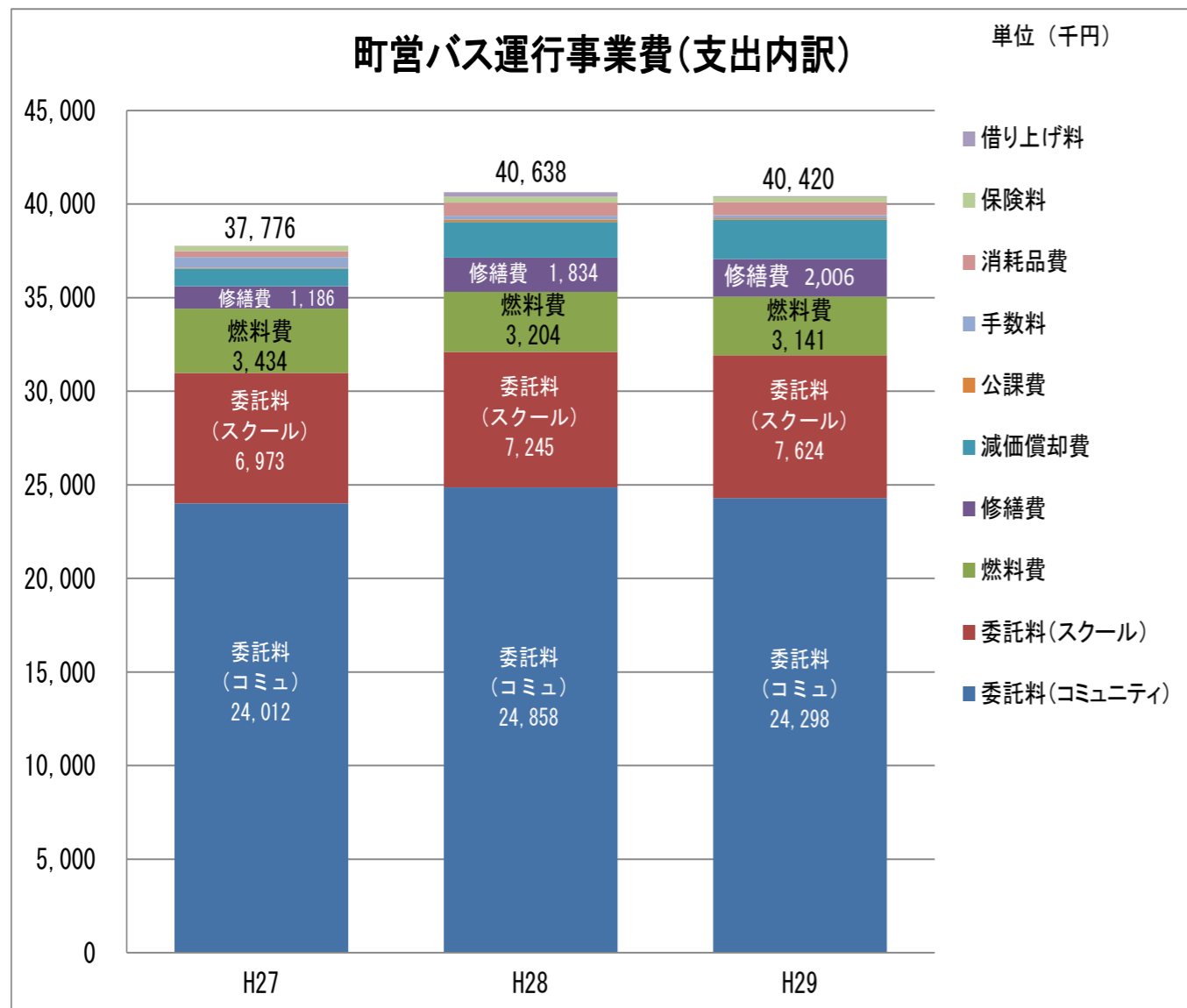
- ・スクールバス便が4便中3便と大部分を占めています。
- ・スクールバス利用便(第1便、第3便、第4便)については、平均乗車最大は25.1人/日となりますが、利用の多い日には30人以上の乗車があり、大型バスによる対応が必要な状況。



※「◎」の運行日数は246日(土日祝日運休)

町営バスの運行事業費及び収支状況

・委託料（コミュニティバスとスクールバスの合算）が運行費の約8割を占めています。また、年間4,000万円程度の支出に対して事業費収入は県補助金を活用しても25%未満となっています。



町営バスに対する意見 (H27~H29 年度に実施したアンケート調査より抜粋)

町営バスに対する自由意見の総数：91 件のうち意見が多かった分類を抜粋し、主な意見を抽出

○公共交通の充実に対する意見：13 件

- ・自動車を持たない (運転できない) 人でも暮らしやすい町づくりを進めるべきだ。
- ・郊外に買い物に出なくても町内で買い物できるように企業の誘致や町営バス等を有効利用してほしい。
- ・免許返納しても、公共交通(バスなど)を利用して、いろんな所へ行きたい。

○運行時間、運行形態の見直し：12 件

- ・中学生の息子が登下校の際に利用し助かっているが、冬場等、学校への着時間がギリギリもしくは遅刻の状態にある。
- ・バスについて、ずっと遠回りして回っている。その地区全体を一周しているので時間がかかる。(70代)

○本数(回数)増便：11 件

- ・コミュニティバスの本数を増やしてほしい(南加積線)。市街地から遠いので、買いものや駅までの交通手段として、多世代で利用したいと思いますが 本数が少なく利用できない。

○料金見直し：8 件

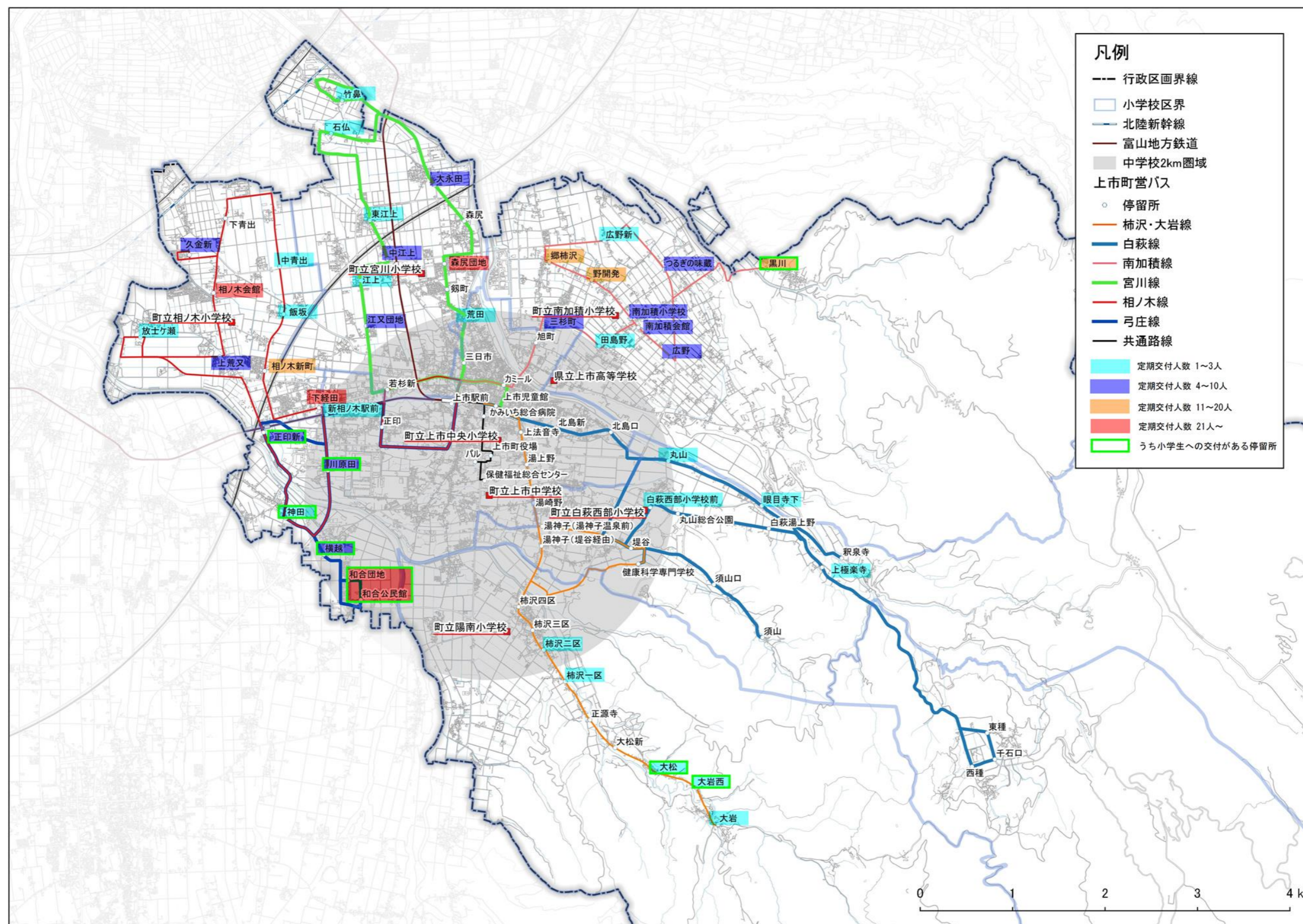
- ・バスを100円にして、もっと乗り易く考えてほしい。

(その他意見)

- ・バス停や路線の周知 7 件
- ・バスの小型化 7 件
- ・バス停以外での自由乗降 5 件
- ・バス停の増設(改修) 4 件
- ・路線拡大(延伸) 4 件
- ・スクールバスの見直し 3 件

スクールバスの現状と検証（定期券の交付状況について）

平成 29 年度における小学生と中学生への定期券の交付状況(交付人数は年間と冬季のみ合算した人数)を停留所ごとに示したものとなっており、交付人数別に停留所を着色しているものとなっています。全路線において交付されている状況であり、特に南加積線と相ノ木線では、交付人数の多い停留場が目立ちます。また、柿沢・大岩線、南加積線や弓庄線では小学生への交付があります。定期購入者が多い停留場は「森尻団地（33人）」、「和合団地・和合公民館（計31人）」、「相ノ木会館（22人）」、「下経田（21人）」等となっています。



冬季(12月ごろ～3月ごろ)の臨時スクール専用便について

・上市中学校においては、冬季に自転車通学が禁止とされています。

このため、当該期間、中学生は保護者等の送迎やスクールバス等での登下校となりますが、通常運行しているスクールバスのみでは、定員不足が発生する恐れが高く、臨時にスクール専用便を運行しています。H30年度の利用状況は以下のとおりでした。

便名		運行日数及び乗車状況							
相ノ木方面 朝便		H30.12月		H31.1月		H31.2月		H31.3月	
停留所等	運行時刻	人数	運行日数	人数	運行日数	人数	運行日数	人数	運行日数
相ノ木新町	7:20	21	15日	34	17日	46	19日	18	14日
上荒又	↓	35		64		64		20	
保健福祉総合センター	7:36	-	3.7人/日	-	5.8人/日	-	5.8人/日	-	2.7人/日
下経田	↓	93	15日	202	17日	194	19日	60	14日
保健福祉総合センター	8:00	-	6.2人/日	-	11.9人/日	-	10.2人/日	-	4.3人/日
人数計		149		300		304		98	

便名		運行日数及び乗車状況							
南加積・宮川方面 朝便		H30.12月		H31.1月		H31.2月		H31.3月	
停留所等	運行時刻	人数	運行日数	人数	運行日数	人数	運行日数	人数	運行日数
南加積会館	7:08	12	15日	22	17日	17	19日	9	14日
田島野	↓	26		50		44		8	
三杉町	↓	31		47		47		2	
保健福祉総合センター	7:23	-	4.6人/日	-	7.0人/日	-	5.7人/日	-	1.4人/日
森尻団地1便	↓	59	15日	79	17日	65	19日	0	14日
保健福祉総合センター	7:43	-	3.9人/日	-	4.6人/日	-	3.4人/日	-	0.0人/日
森尻団地2便	↓	57	15日	135	17日	113	19日	21	14日
保健福祉総合センター	8:03	-	3.8人/日	-	7.9人/日	-	5.9人/日	-	1.5人/日
人数計		185		333		286		40	

便名		運行日数及び乗車状況							
相ノ木・宮川方面 夕方便		H30.12月		H31.1月		H31.2月		H31.3月	
停留所等	運行時刻	人数	運行日数	人数	運行日数	人数	運行日数	人数	運行日数
保健福祉総合センター	17:20	-	15日	-	17日	-	19日	-	14日
下経田	↓	31		61		53		12	
相ノ木新町	↓	21	30	22	7				
保健福祉総合センター	17:45	-	3.5人/日	-	5.4人/日	-	3.9人/日	-	1.4人/日
森尻団地	↓	40	15日	80	17日	44	19日	0	14日
役場(戻り)	17:55	-	2.7人/日	-	4.7人/日	-	2.3人/日	-	0.0人/日
人数計		92		171		119		19	

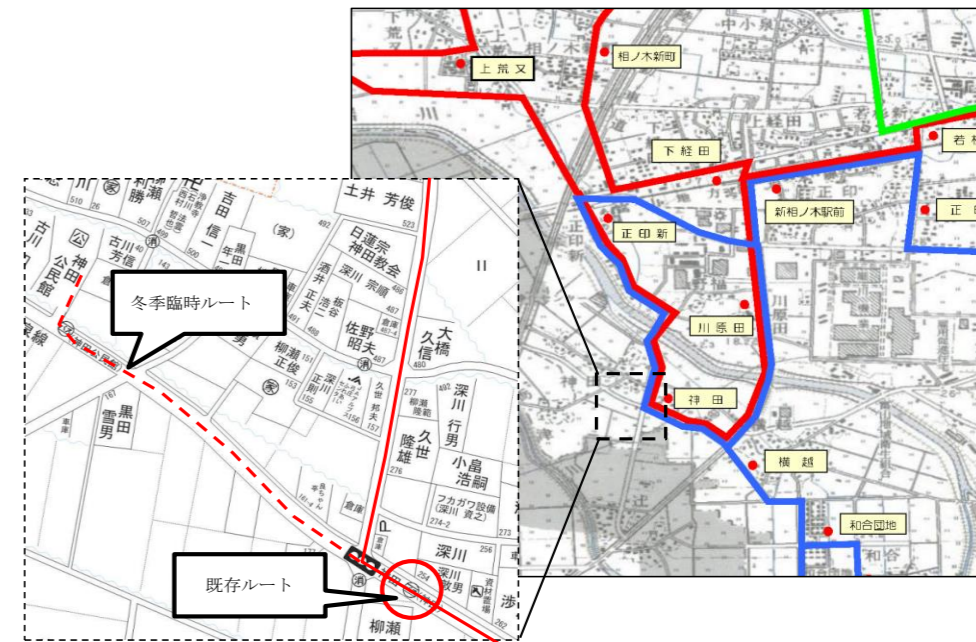
スクールバスにおける検証と課題

◆相ノ木線と弓庄線の重複路線について

●重複路線の経緯

重複路線となったのは平成16年。正印新や川原田を含む弓庄地区の児童数が多く、バス1台では対応できなかった(平成16年当時の対象児童数は70名弱)。そこで相ノ木線の一部を延伸し、正印新・神田・川原田の児童を相ノ木線で乗車させることとなりました。

また、神田地区では、児童が多く、既存バス停(6~7人程度のプレハブ小屋)では、待合所及び歩道から児童があふれ危険であったことや、交差点に信号がなかったことから、冬季は神田公民館にて乗降することとしていました。



平成31年度

スクールバス乗車人数

●現在の利用状況

平成31年度のスクールバスの対象児童(弓庄地区+正印新・川原田)は36名(H30 39名)で、中学生2名を含めても最大乗車数は38名(H30 41名)の見込みであり、地鉄から借り上げている車両1台(55人乗り、もしくは63人乗り)で対応可能と考えられます。(なお、昨年1~12月の実際の最大利用者は35名)。

上市中央小学校

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
正印新	1		1	1	2		5
神田	1				1		2
川原田			1	1	1	1	4
横越					2	1	3
和合	5	2	3	5	2	5	22
合計	7	2	5	7	8	7	36

※和合は「和合」及び「和合団地」

上市中央小学校 合計 36

上市中学校

	1年	2年	3年	合計
正印新		1		1
神田			1	1
合計	0	1	1	2

上市中央小学校 合計 2

弓庄方面におけるスクールバス乗車人数合計 38

スクールバスにおける検証と課題

◆宮川線について

宮川線の第1便の保健福祉総合センター着が8時10分

→バス利用生徒が朝活（8:15）までに時間的余裕がない。



◆南加積線について

南加積線は黒川地区からの小学生の利用があるが、第1便の南加積小学校着が7時21分。

→開校時刻（7時30分ごろ）に合わせ手前のバス停で降車し、徒歩で通学。



町営バスの現状と問題点

これまでの状況分析の結果、現状と問題点については以下のとおりと考えています。

【現状】

- ・スクールバスとの混乗型での利用。
- ・バス全体の利用者数は46,000人弱であり、そのうちコミュニティバス便の年間利用者は26,000人程度。（日あたり70人弱/6路線）
- ・利用者の行動は、（午前中）自宅等⇒町中心部、（午後）中心部⇒自宅等が主となっている。
- ・早朝・夕方（18時以降）の利用率は低い。
- ・平日と土日の利用を見ると、土日（特に日曜日）に利用者が減る傾向にある。

【問題点】

（全体）

- ・公共交通空白地がある。（町南部エリア、南加積地区ほか）

（コミュニティバス）

- ・路線延長が長く利便性が低い。
- ・利用者が少ないエリアや便がある。
- ・路線によっては、次便との間隔が長く、住民の行動とミスマッチの可能性がある。
- ・郊外部の重複路線では利用率が低い。

（スクールバス）

- ・運行ルート及び運行車両の規模がミスマッチ。
- ・登下校実態とダイヤとの不整合が存在。

町営バスの再編方針

1 コンセプト

- ・スクールバスの維持（学生（生徒・児童）の足の確保）
- ・コミュニティバスの再編（交通弱者の生活の足の確保）

2 方針

①デマンド運行方式の導入

- ・利用者の少ない既存路線は予約式乗り合い運行（デマンド運行）を導入

②既存路線については、以下を実施

- ・郊外部の路線沿線上での自由乗降の実施（安全性確保が前提）
- ・重複路線の解消
- ・便数の増加
- ・電車との接続性を向上
- ・利用者の少ない便や運行日の見直し

3 実証運行開始時期

本年秋から



○予約乗り合い方式（デマンド方式）について

現状の町営バスとの大きな違いは『予約がないと走らないこと』

○予約乗り合い方式の分類について

デマンド型交通を運行方式から見た際には、定められたルートを実行する「定路線型」から一般的なタクシー事業者のように運行ルートを定めず、需要に応じ、乗降り場所の指定も行わない「自由経路ドアツードア型」まで幅広い運行方式がある。

現在、町で検討しているデマンド方式

<p>A 定路線型</p> <p>路線バスやコミュニティバスのように、所定のバス停等で乗降を行うが、予約があった場合のみ運行し、予約がなければ運行しない方式。“空気バス”の解消を図ることができる。</p>	<p>C 自由経路ミーティングポイント型</p> <p>運行ルートは定めず、予約に応じ所定のバス停等間を最短経路で結ぶ方式。最短経路の選択により所要時間を短縮するとともに、バス停等を多数設置することにより、バス停等までの歩行距離を短縮することができる。一般タクシーとの差別化を図るため、目的施設または発施設を限定するが多い。</p>
<p>B 迂回ルート・エリアデマンド型</p> <p>定路線型をベースに、予約に応じて所定のバス停等まで迂回させる運行方式。バス停等まで遠い地域に迂回ルートを設定することにより、交通空白地域の解消を図ることができる。</p>	<p>D 自由経路ドアツードア型</p> <p>運行ルートやバス停等は設けず、指定エリア内で予約があったところを巡回するドアツードアのサービスを提供する運行方式。一般タクシーとの差別化を図るため、目的施設または発施設を限定する場合もみられる。</p>